

## 国民体育大会の概要

スポーツ課国体準備室

## 1 主催

(公財) 日本スポーツ協会 文部科学省 開催地都道府県

## 2 目的

大会は、広く国民の間にスポーツを普及し、スポーツ精神を高揚して国民の健康増進と体力の向上を図り、併せて地方スポーツの振興と地方文化の発展に寄与するとともに、国民生活を明るく豊かにしようとするを目的とする。

## 3 開催時期及び開催期間

- (1) 冬季大会：1月～2月、5日間以内
- (2) 本大会：9月～10月、11日間以内

## 4 実施方式

- (1) 冬季大会と本大会の競技得点の合計を競う都道府県対抗方式で開催される。
- (2) 上記両大会で実施した全正式競技の男女総合成績1位に“天皇杯”、女子総合成績1位に“皇后杯”が授与される。

## 5 実施競技(競技数)

区分		第70回(2015年)	第74回(2019年)	第78回(2023年)	
		第73回(2018年)	第77回(2022年)	第81回(2026年)	
本大会	正式競技	毎年実施	34	36	36
		隔年実施	4	2	2
		開催地選択	隔年実施対象外から 1競技を選択	休止	休止
		計	38	38	38
	公開競技	4	5	7	
	デモンストレーションスポーツ	開催都道府県が希望する競技			
	特別競技	1	1	1	
冬季大会	正式競技	毎年実施	3	3	3
	デモンストレーションスポーツ	開催都道府県が希望する競技			

※ 第78回～81回大会の実施競技は別紙のとおり(第82回大会以降の開催競技については、今後(公財)日本スポーツ協会で検討)なお、実施競技は4年ごとに見直すこととされている。

## 6 大会規模等(出典：日体協発行「Sports Japan」による。)

- ・国体参加選手約2万人
  - ・観客動員約60万～70万人
  - ・大会開催経費約100億～150億円
  - ・経済効果約500億～600億円
- [第73回(2018年)国体への長野県選手団派遣人数：冬季大会(山梨・神奈川・新潟県)259人、本大会(福井県)569人]

## 7 その他

- (1) 戦後の混乱期の中、スポーツを通して国民に希望と勇気を与えようと、昭和21年(1946年)、京都を中心とした京阪神地区で第1回大会が開催された。
- (2) 各都道府県持ち回り方式で毎年開催され、昭和36(1961)年からは、国のスポーツ振興法に定める重要行事の一つとして行われている。(※平成23年(2011年)からは、スポーツ基本法第26条に定められている。)

なお、本県では、昭和53年(1978年)に第33回大会を「やまびこ国体」として開催し、昭和63年(1988年)の第43回京都大会から、二巡目開催となる。

## 第78回大会(2023年)～第81回大会(2026年)における実施競技について

### 1 本大会

#### (1) 正式競技 : 計38競技

##### ア 毎年実施競技 : 計36競技

陸上競技、水泳、サッカー、テニス、ボート、ホッケー、バレーボール、体操、バスケットボール、レスリング、セーリング、ウエイトリフティング、ハンドボール、自転車、ソフトテニス、卓球、軟式野球、相撲、馬術、フェンシング、柔道、ソフトボール、バドミントン、弓道、ライフル射撃、剣道、ラグビーフットボール、スポーツクライミング、カヌー、アーチェリー、空手道、銃剣道、なぎなた、ボウリング、ゴルフ、トライアスロン

##### イ 隔年実施競技 : 計2競技(※ 下記種目のうち、1種目を実施)

ボクシング、クレール射撃

※ 「正式競技」の実施区分のうち「開催地選択競技」については、休止とする。

#### (2) 公開競技 : 計7競技

綱引、ゲートボール、武術太極拳、パワーリフティング、グラウンド・ゴルフ、バウンドテニス、エアロビック

#### (3) デモンストレーションスポーツ

上記「(1)正式競技」及び「(2)公開競技」に該当しない競技団体の競技。

なお、日体協加盟(準加盟)団体以外の競技についても、「国民体育大会デモンストレーションスポーツ実施基準」に基づき、開催都道府県競技団体が開催都道府県と調整の上で実施することができる。

例：ウォーキング、ソフトバレーボール、スポーツ吹矢 等

#### (4) 特別競技 : 計1競技

高等学校野球

### 2 冬季大会

#### (1) 正式競技

##### ア 毎年実施競技 : 計3競技

スキー、スケート、アイスホッケー

# 全国障害者スポーツ大会の概要

障がい者支援課

## 1 主催

(公財)日本障がい者スポーツ協会、文部科学省、開催地都道府県、市町村、その他関係団体

## 2 目的

障がいのある選手が、障がい者スポーツの全国的な祭典であるこの大会に参加し、競技等を通じ、スポーツの楽しさを体験するとともに、国民の障がいに対する理解を深め、障がい者の社会参加の推進に寄与することを目的とする。

## 3 開催時期及び開催期間

国民体育大会本大会の直後を原則として、3日間（例年、概ね10月中）

## 4 参加資格

13歳以上の身体障がい者、知的障がい者、精神障がい者

## 5 実施競技（予定）

区分		競技数	競技名 (身：身体障がい者、知：知的障がい者、精：精神障がい者)
正式競技	個人競技	7	<ul style="list-style-type: none"> <li>・陸上競技（身・知）</li> <li>・アーチェリー（身）</li> <li>・卓球（身・知・精※） [サウンドテーブルテニス（身）を含む]</li> <li>・ボウリング（知）</li> <li>・水泳（身・知）</li> <li>・フライングディスク（身・知）</li> <li>・ボッチャ※</li> </ul>
	団体競技	7	<ul style="list-style-type: none"> <li>・バスケットボール（知）</li> <li>・ソフトボール（知）</li> <li>・サッカー（知）</li> <li>・バレーボール（身・知・精）</li> <li>・車いすバスケットボール（身）</li> <li>・グランドソフトボール（身）</li> <li>・フットベースボール（知）</li> </ul>
オープン競技			<p>広く障がい者の間にスポーツを普及する観点から有効と認められるものについて、主催者間で協議のうえ実施</p>

※正式競技については、全国障害者スポーツ大会大会委員会で協議し、開催年の5年前までに日本障がい者スポーツ協会が決定。

※今後導入が予定されている競技：2019年～卓球（精）、2021年～ボッチャ（身）

## 6 大会規模等

・選手 約3,500人      ・役員 約2,000人

・観客 約32,000人（H28いわて大会）

・大会開催経費 約20億円

[第17回（2017年）えひめ大会への長野県選手団派遣人数：38人]

## 7 その他

(1) 全国障害者スポーツ大会は、昭和40年（1965年）から行われてきた「全国身体障害者スポーツ大会」と、平成4年（1992年）から行われてきた「全国知的障害者スポーツ大会」を統合した大会として、平成13年（2001年）から国民体育大会終了後に、同じ開催地で行われている。

(2) 本県では、昭和53年（1978年）「やまびこ国体」の開催後に、「第14回全国身体障害者スポーツ大会（やまびこ大会）」を開催して以来の開催となる。

## 全国障害者スポーツ大会実施競技等について

### 1 競技実施区分

各競技ごとに、①性別区分、②年齢区分(個人競技のみ)、③障がい区分(障がい種別、程度)が定められている。

○年齢区分 身体障がい者 1部(39歳以下)、2部(40歳以上)  
 知的障がい者 少年(19歳以下)、青年(20歳～35歳)、壮年(36歳以上)  
 精神障がい者 年齢区分なし

### 2 障がい種別実施競技及び主管団体

区分	競技名	障がい区分		視覚障がい	聴覚障がい	内部障がい	知的障がい	精神障がい	県主管団体 (先催県の例)
		肢体不自由	知的障がい						
個人	陸上競技	○	○	○	○	○※	○	×	陸上競技協会
	水泳	○	○	○	○	×	○	×	水泳連盟
	アーチェリー	○	×	○	○	○※	×	×	アーチェリー協会
	卓球	○	○	○	○	×	○	○※※	卓球連盟
	フライングディスク	○	○	○	○	○※	○	×	フライングディスク協会
	ボウリング	×	×	×	×	×	○	×	ボウリング連盟
	ボッチャ※※※	○ 重度	×	×	×	×	×	×	ボッチャ協会
団体	バスケットボール	×	×	×	×	×	○	×	バスケットボール協会
	車いすバスケットボール	○	×	×	×	×	×	×	
	ソフトボール	×	×	×	×	×	○	×	ソフトボール協会
	グランドソフトボール	×	○	×	×	×	×	×	
	フットベースボール	×	×	×	×	×	○	×	
	バレーボール	×	×	○	×	×	○	○	バレーボール協会
	サッカー	×	×	×	×	×	○	×	サッカー協会

※ 内部障がい：ぼうこう又は直腸機能障害

※※ 2019年から実施

※※※ 2021年から実施

### 3 実施種目

競技	種目
陸上	・競走 50m、100m、200m、400m、800m、1500m、スラローム、4×100mリレー ・跳躍 走高跳、立幅跳、走幅跳 ・投てき 砲丸投、ソフトボール投、ジャベリックスロー、ピーンバッグ投
水泳	・自由形・背泳ぎ、平泳ぎ、バタフライ(各25m、50m) ・4×50mリレー、4×50mメドレーリレー
アーチェリー	・リーカーブ(50m・30m、30mダブル) ・コンパウンド(50m・30m、30mダブル)
フライングディスク	・アキュラシー(5m、7m) ・ディスタンス(座位、立位)

第82回国民体育大会・第27回全国障害者スポーツ大会開催に向けたスケジュール(案)

年度		開催手続等	推進体制等
事前対応		H29.3 2月定例県議会で「両大会の招致に関する決議」が全会一致で可決	
2017年度	10年前	<p><b>開催の内々定(7/18)</b> (開催申請書提出順序の了解)</p>	<p>開催要望書の提出(5/22)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・準備委員会の設置</li> <li>・常任委員会の設置</li> </ul> <p>・専門委員会の設置 (総務企画・競技運営)</p>
2018年度	9年前	<ul style="list-style-type: none"> <li>・[総合開・閉会式会場]の選定</li> <li>・[競技会場地市町村(第1次分)]の選定</li> </ul> <p>※ いずれも11/9決定</p>	<p>・準備委員会総会</p> <p>・常任委員会</p> <p>・各分野の専門委員会の設置(順次)</p> <p>※ 上記の各会議において、開催準備に関する諸事項を審議・検討</p>
2019年度	8年前		
2020年度	7年前	<p>国体「正式競技」の決定(日体協)</p> <p>※ 4年ごと見直し</p>	
2021年度	6年前	<p>中央競技団体の 正規視察</p>	
2022年度	5年前	<p>国体「公開競技」の決定</p> <p><b>開催の内定</b></p> <p>全障スポ「実施競技」の決定(日障スポ協)</p>	<p>国体「公開競技」申請</p> <p>開催申請書の提出</p>
2023年度	4年前		
2024年度	3年前	<p>国体「デモンストレーションスポーツ」の決定</p> <p><b>開催の決定</b></p> <p>(文科省・日スポ協) 会場地総合視察</p>	<p>国体「デモンストレーションスポーツ」申請</p> <p>実行委員会の設置</p>
2025年度	2年前		
2026年度	1年前	<p>国体・全障スポリハーサル (プレ大会)</p>	
		第82回国民体育大会(冬季大会) 開催	
2027年度		第82回国民体育大会(本大会)・第27回全国障害者スポーツ大会 開催	

# 第 82 回国民体育大会・第 27 回全国障害者スポーツ大会「総合開・閉会式会場」及び第 82 回国民体育大会「競技会場地市町村（第 1 次）」の選定について

スポーツ課国体準備室

## 1 「総合開・閉会式会場」の選定

本県の「総合開・閉会式会場選定基本方針※」を踏まえるとともに、運営上の観点から、総務企画専門委員会委員の下記のような意見を総合的に判断した結果、平成 30 年 11 月 9 日（金）の常任委員会において、総合開・閉会式会場は、松本平広域公園の陸上競技場とすることが「決定」した。

記

### 【陸上競技場での実施・県有施設の活用】

- (1) 入場行進から整列までの一連の利便性等の運営面を考慮し、陸上競技場で行うことが先催県の状況からも一般的。
- (2) 参加者確保の観点からも、最終日まで競技が実施される陸上競技場を会場とすることが適当。
- (3) 式の運営は県が行うことに鑑み、県有施設である「松本平広域公園陸上競技場」はふさわしい施設。

### 【全国障害者スポーツ大会・アスリートファーストからの視点】

- (1) 全国障害者スポーツ大会は、閉会式においては全選手・監督及び役員を含め約 5,000 名が参加することから、各競技会場からの移動等を考慮すると、県のほぼ中央に位置する陸上競技場で開催することが理想的。
- (2) 全国障害者スポーツ大会の開・閉会式会場は、「総合開・閉会式会場選定基本方針」により国体と同じ会場で行うことを原則としていることから、経費や運営面などからも、国体と同じ会場で行うことがふさわしい。

### 【レガシーの尊重】

- (1) 昭和 53 年（1978 年）の「やまびこ国体」において陸上競技会場となった「松本平広域公園」は、国体における貴重なレガシー。
- (2) 公園内にある競技場は、その後の陸上競技の発展に大きく寄与したことから、再びこの場所にスポットライトを当て、本県の更なるスポーツ振興へと繋げたい。

※（参考）総合開・閉会式会場選定基本方針（抜粋）

- |   |
|---|
| <ol style="list-style-type: none"><li>① 会場地となる市町村から開催に必要な協力が得られる。</li><li>② 会場周辺に駐車場等の用地や仮設テント等の設置スペースが十分確保できる。</li><li>③ 多数の参加者が集まる事ができる輸送及び交通手段が確保できる。</li><li>④ 会場周辺に相当の宿泊受入能力がある。</li><li>⑤ 総合開・閉会式会場は同一会場で行うことを原則とする。</li><li>⑥ 全国障害者スポーツ大会の開・閉会式会場は、国体と同じ会場で行うことを原則とする。</li></ol> |
|---|

## 2 「競技会場地市町村（第1次）」の選定

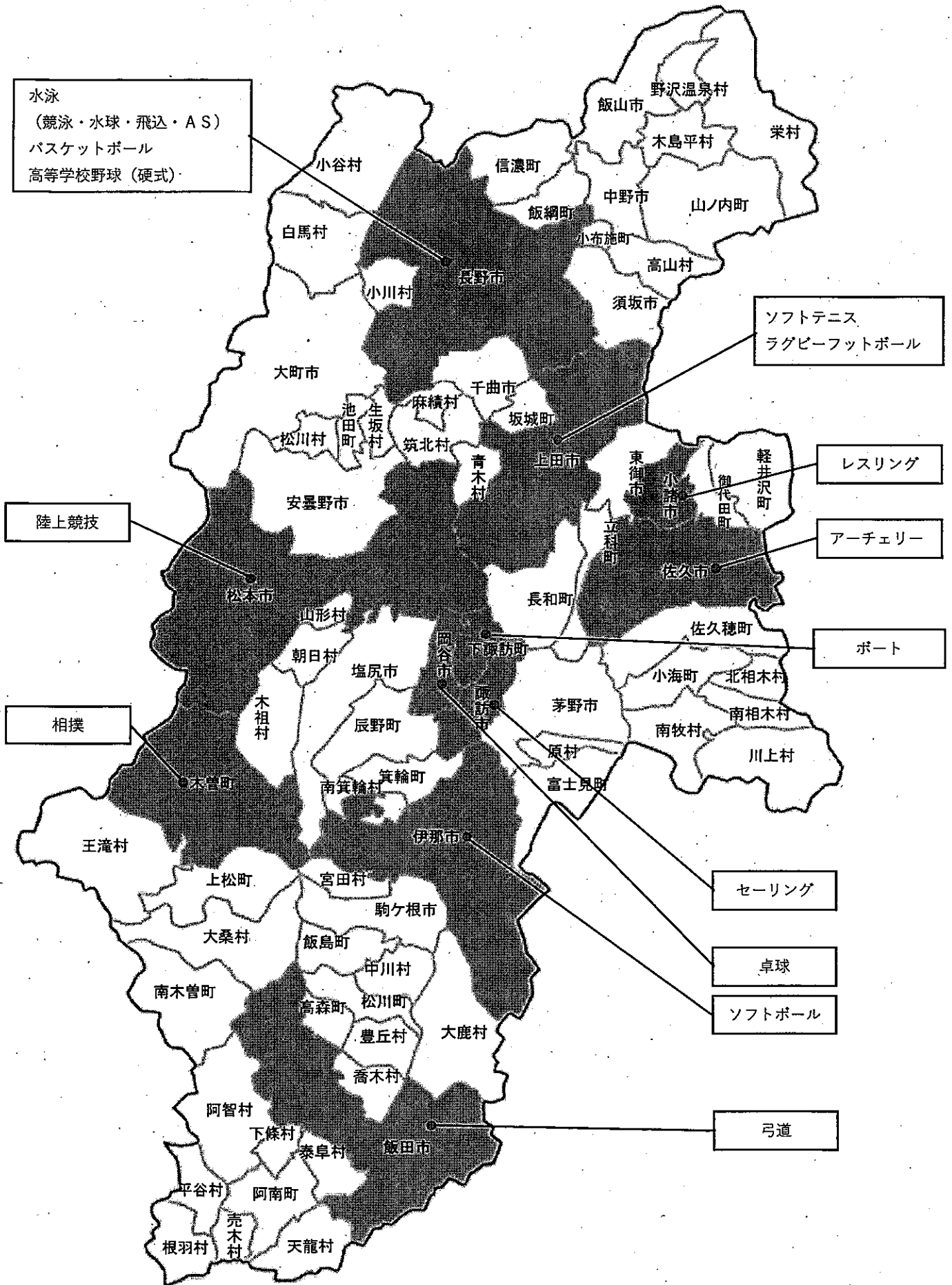
### 【市町村別】

No.	市町村名	競技・種目名		種別	開催予定施設
1	長野市	水泳	競泳	全種別	長野運動公園総合運動場総合市民プール (アクアウイング)
			水球		
		飛込			
			AS		
		バスケットボール		全種別	真島総合スポーツアリーナ(ホワイトリング) 長野運動公園総合運動場総合体育館 南長野運動公園総合運動場体育館
		高等学校 野球	硬式		南長野運動公園総合運動場野球場 (長野オリンピックスタジアム) 長野運動公園総合運動場県営野球場
2	松本市	陸上競技		全種別	松本平広域公園陸上競技場
3	上田市	ソフトテニス		全種別	上田市新設テニスコート
		ラグビーフットボール		全種別	サニアパーク菅平
4	岡谷市	卓球		全種別	岡谷市民総合体育館(スワンドーム)
5	飯田市	弓道		全種別	県営飯田弓道場
6	諏訪市	セーリング		全種別	諏訪市特設セーリング会場
7	小諸市	レスリング		全種別	小諸市総合体育館
8	伊那市	ソフトボール		全種別	伊那スタジアム・伊那市営野球場 富士塚スポーツ公園運動場 美すずスポーツ公園運動場 高遠スポーツ公園総合運動場
9	佐久市	アーチェリー		全種別	佐久総合運動公園陸上競技場
10	下諏訪町	ボート		全種別	下諏訪町漕艇場
11	木曾町	相撲		全種別	木曾町民相撲場

※ 14 競技 11 市町

(参考)

- ・ 本県が 2027 年度に開催予定の第 82 回国民体育大会の実施競技の選定は、(公財)日本スポーツ協会において、2020 年 3 月頃に正式決定となる予定のため、実施競技が変更になる可能性もある。
- ・ 競技数は冬季大会も含め約 40 競技あるが、今後、数次にわたり選定を進めていく中で、遅くとも 2020 年度末を目途に選定が完了できるよう取り組む予定。



水泳  
 (競泳・水球・飛込・AS)  
 バスケットボール  
 高等学校野球(硬式)

ソフトテニス  
 ラグビーフットボール

レスリング

アーチェリー

ボート

陸上競技

相撲

セーリング

卓球

ソフトボール

弓道



